

## ワーキンググループ及びヒアリングの概要

### 1 ワーキンググループ

- (1) 日 時 令和2年2月4日(火)14:30～16:30  
(2) メンバー 山本委員  
岸上委員  
入澤委員  
斉野委員  
黄瀬委員  
(3) 協議内容 「北海道 Society5.0 構想」(素案)の検討

#### <主な意見>

- ・はじめにコネクテッドとオープンという観点で描く必要がある。
- ・道民の視点が必要であり、道民の側に立って書かなければならない。
- ・ICTだけを使うことが北海道 Society5.0 ではない。AIやロボットなども含めた未来技術を活用して世の中をよくしていくことである。
- ・各分野の取組がバラバラに動くのではなく、互いに連携して進めていくという見せ方が必要である。

### 2 ヒアリング

#### (1) 食品製造業者

- ① 日 時 令和2年1月30日(木)13:30～16:00  
② 主な内容
- ・人が作業している工程をIoTで分析し、各工程の作業量をデジタル化することにより、人員の最適な配置が図られ、生産性が向上する。
  - ・商品に合わせたロボットなどの開発による機械化により、人の技術の伝承が図られるとともに品質が向上する。
  - ・ビッグデータの活用により様々な需要に対応できる機械が開発され、高齢者や家族向けの新商品の開発や道外、海外への販路拡大が図られる。

#### (2) K a l m角山(酪農事業者)

- ① 日 時 令和2年2月6日(木)10:30～12:00  
② 場 所 江別市角山491番地  
③ 主な内容
- ・現在の搾乳ロボットで判別できない牛の乳房は人が行うが、ロボットが改良されるか牛がゲノム等により改良されるかにより全て機械化される。
  - ・遠隔カメラを活用し、目のくぼみなど牛の状態を熟練者が経験や勘に基づいた指示を出すなど、新規参入者でもフランチャイズ化による牧場経営が可能となる。
  - ・さらに、過疎地において新規参入者が定着することにより地域コミュニティが活性化される。
  - ・搾乳ロボットやカメラ等から得られるデータを収集して、ビッグデータとして分析することで生産性の向上が図られる。